

クリニックと患者さんの連携

院長

「この度は、娘を助けてくださり本当に本当にありがとうございました。かわむら先生には感謝してもしきれません。手術にも立ち会ってくださり、ありがとうございました。」。突然こんな文章を示しても、皆さんには何のことかわからないでしょう。テーマも何のことなのか、疑問符ばかりです。

当院の理念が「お母さんの不安・心配の解消」であることを皆さんは知っていますよね。非常に希な病気で重症な赤ちゃんが3つの病院を救急車で転送、お母さんの不安がいかに想像もつきません。その不安に対して、理念を基にクリニックとかかりつけの医療ソーシャルワーカー(MSW)とが連携・協力して母親の精神的サポートに当りました。母親とMSWのコメントを加えて物語風に綴ってみました。

カゼで再診した3ヶ月時。兄弟の診察中スタッフが抱っこしていた時はニコニコ。診察室には入ってきた途端、途切れるような呼吸、顔色も青ざめ、うつろな表情。一目で重症とわかるほどで、酸素飽和度(体中の酸素割合)も低い。酸素投与で回復したものの、直ちに病院転送の救急車要請。「先生の言葉が全然頭に入ってこなかった。救急車じゃないと間に合わない。」と言われて初めて我に返った。」

看護師を同乗させ病院へ。「意識が無くなるのではないかと不安になり、震えが止まらない。看護師さんの『大丈夫。』という言葉を感じて病院に急ぐ。」

入院手続きをすませた後、レントゲンで横隔膜ヘルニアと診断。再び救急車で専門の病院へ。「なかなか着かない。娘が、だんだん弱くなっていくような気がして早く到着してほしいと願う。」

理念「お母さんの不安・心配の解消」基にした活動のひとつが入院先への訪問。あまりにも大きな不安に対して、今回は訪問はもちろんのこと更なる手だての必要性を痛感。幸い入院先の病院には、遠方から通院の母親がMSWとして勤務。普段からもコミュニケーションがとれ、直前にも相談とも愚痴ともつかないメールに返信。依頼したMSWからは、「相変わらず、川村先生は患者さん(の親)思いだなあ。親愛なる、大恩ある川村先生にお願いをされるなんて光栄だ!」とのうれしい返事を頂く。

事前の対応は整い、翌日の手術に立会うことに。5

時間に及ぶ手術、両親の不安・心配は極限に。「娘が手術着に着替え、エレベーターに乗り手術室に入っていく。ずっと手を握る。涙で娘の顔がよく見えない。手術室の扉が閉まると夫と一緒に泣いた。1分1秒が長い。全然時間が過ぎない。何か口にしたいが何を食べたか覚えていない。夫と何を話したのかも覚えていない。」

無事手術が終了、執刀医の説明に同席。居るはずのない院長の顔を見て...。「かわむら先生の顔を見たら、緊張の糸が切れたかのように泣いてしまった。そっけない話し方なのに温かく感じた。嬉しかった。まさか来てくれると思っていなかったのが有難いなと思った。手術に立ち会ったと聞き、こんな熱心な先生いるんだなと思った。」

器械を付けられている不安の中、MSWが病室を訪問。「まさか、かわむら先生からの紹介だとは思わなかった。こんな配慮してくれるとはビックリした。同じ母親、子ども達がかかりつけだと教えて頂き心強かった。」。MSWの感想は「もちろん、先生の予測(期待?)のとおり、お母さんは初めての大学病院の小児病棟で、同じクリニックのかかりつけの親であり大学病院の職員でもある私に声をかえられて、そして、私を通して先生がお母さんのことを心配していることを知り、さまざまな不安が軽減されたという良い結果をもたらしたと思います。(MSW)」

退院が決まって喜びの母親からメールが。「この度は、娘を助けてくださり本当に本当にありがとうございました。かわむら先生には感謝してもしきれません。手術にも立ち会ってくださり、ありがとうございました。退院のめどは経ってませんが、経過は順調です。今日、ソーシャルワーカーの方と話しました。かわむら先生より〜と聞いて泣きそうになるのを堪えました。退院したら、先生に会いに行きます。今後も息子と娘が度々お世話になると思います。よろしくお願いします。」

「不安・心配の解消」に加えて、母親を励ますために2回目の訪問。手術直後と比べて疲労と不安の色も薄れ、笑顔での対応。「昨日はわざわざ病室まで来て下さりありがとうございました。先生の顔を見たら、心が温かくなり泣いてしまいました。つくづく、先生と出会えたことに感謝しています。お陰さまで明日退院することになりました。念のためということで、夜寝るときだけ酸素を付けて、酸素を測る機械を付けることになりました。自宅に帰ることで、まずは一安心です。本当にありがとうございました。」のメールが届く。

今回のケースは、開業以来続けてきた「お母さんの不安・心配の解消」の集大成のような気がします。院長だけでなく、スタッフ、かかりつけの患者さんの連携により、重症な児を持った両親の心の支えとなることができました。無理なお願いにもかかわらず、率直で感謝あふれるコメント寄せてくれたお母さん。そして、大きな役割を果たしてくれたMSW、本当にありがとうございました。



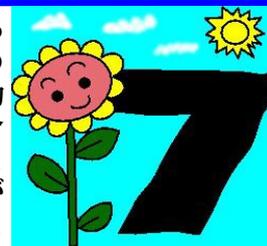
7月のお知らせ

- ・東北大学医学部学生実習
11日(金)
ご理解とご協力を!
- ・栄養育児相談
16日、30日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料



読者の広場

先月は13通のメールを頂きました。一面記事の連携は、まさに『かわむらこどもクリニック』が求める世界です。「お母さんの不安・心配の解消」の理念を掲げ、取り組みを続けて20年がたちました。理念に花を咲かせるための活動は、いままでも様々な花を咲かせることができました。しかし記事にも書きましたが、今までに無いくらい大きな花、つまり集大成です。院長だけでなく、クリニックスタッフ、そして患者さんとの連携で、大きな心配・不安で揺れ動くお母さんをサポートすることができました。何より素晴らしいことは、学会発表のために、無理なお願いにもかかわらず、思い出したくない当時の辛く苦しかった母親の心境をしっかりと提供してくれたことです。重症の入院時はクリニックからのサポート、発表に際しては患者さんの協力、まさにクリニックが核となつての連携です。本当にありがとうございました。



一面ではスペースが無く紹介できませんでしたが、MSWのプロ意識溢れるコメントを紹介します。「かかりつけ医として、よくお母さんのキャラクターをとらえつつ、お母さんがどんな心理状況にあるか、どのようなサポートがお母さんに必要か、あるいは有効か、ということをお母さんが配慮してくださったことが本事例の重要なポイントであると考えます。そして、紹介した病院にどのようなスタッフがいるのか、そのスタッフが顔見知りの自分の患者の親であることも十分によく知っていた、ということも連携がうまく図れた要素の一つだと思います。」

まずは泉区の千〇さんから。「今日診察に伺いました千〇友〇の母です。先月嘔吐・高熱を出し点滴をしていただけでもなかなか元気になるはず心配でしたが、運良く下痢が出て調べてもらったらロタウイルスと判明し安心しました。その後、心配して下さり何度もお電話していただいたようで、ありがとうございました。とても嬉しく思いました。何度か引越をしていたので番号が違っていたようですすみませんでした。あの後夜中に5回ほど下痢をして次の日も溇い水下痢をして心配でしたが、回復が早く元気になったので次の週には幼稚園に行ける事が出来ました。先生や看護師さんに大変良くしていただき本当に感謝しております。まさか後日お忙しい中お電話をいただいていたなんて思いもせず今日お話を聞いて感激しました。本当にありがとうございました。」。点滴したお子さんの病状を確認することは、入院中の訪問と基本的に何ら変わりはありません。当院ではごく当たり前のことですが、感謝の言葉を頂きスタッフ一同とてもよろこんでいます。

次はMail Newsの不具合を富谷町の川田さんから指摘を受けました。「こんにちは。以前から気になって居たのですが...私だけのメールなのかも知れませんが?上の様に文中で、ちょっと見辛いメールが毎回届いて居ました。お忙しい中、メールを送って頂いてるので、大変見辛い...もしくは、既にご存知だったかも知れませんが...取り敢えず、ご報告でした。今日は、涼しく過ごせそうですが、これから徐々に暑さを増す日がやってくると思いますが、かわむら先生も頑張ってくださいね~。でも無理のし過ぎだけは、しないでくださいね♪なぜなら、いつまでも私達子供を育てる側の心の支えとなって頂きたいからです♪子供達も随分と丈夫になり、お世話になることも減りましたが、それでもいつも病気になる度に、かわむら先生の事を思い出しては、行くのを楽しみにして居ます。そんな川田家ですが、これからも宜しくお願いします」。読めないメールごめんなさい。一時期フォントの大きさに問題がありましたが、解消しているものと思っていました。「行くの楽しみに...」、これに勝る言葉は有りません。富谷町から時間を掛けてまで来る、これ以上の信頼の証はありません。でも、「子どもたちが丈夫になり、お世話になることが減る」のはいいことです。また、気遣いの言葉、ありがとうございました。無理をしているのではなく、いつも普通です。

Mail Newsが届かない、文字がうまく読めないなどありましたら、遠慮無く受付まで申し出てください。登録をよろしくお願ひします。

今回は変わったテーマ、見てのお楽しみです(笑)
6月14日(土) 体診 午前10時~午後5時
白の野郎早急会 白野郎早急会
解とご協力をお願いいたします
・東北大学医学部学生実習(5月30日)
ご協力、ありがとうございました。
お陰様で、無事終了し学生も大喜びでした。近日中に学生の素晴らしい(?)感想を紹介し

Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、480人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

新しい情報発信として **Twitter**、**Blog**「子どもクリニック四方山話」、**Facebook** ページ、**YouTube** にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。



MailNews



Twitter



Facebook



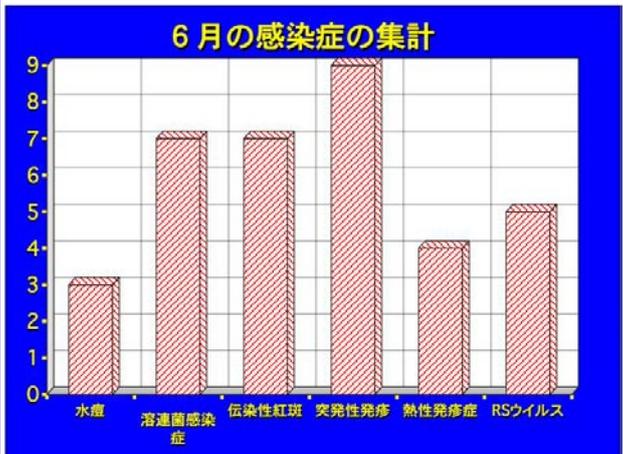
Blog

編集後記

一面の連携は、理念の賜物です。お互いが助け合い、そして支え合うことによって、誰かの喜びに結びつく。全てを紹介できませんでしたが、入院したお母さんから寄せられたコメントはとてありがたいものでした。普段医師と患者の間で見逃されてしまふ不安から安心、そして感謝への心の動きを伝えてもらいました。このエピソードを新たな切っ掛けとして、理念に花を咲かせるために今後も努力していきます。



K's clinic



一旦減少した溶連菌感染症は再び増加しています。伝染性紅斑が相変わらず。目立っています。感染性胃腸炎は減少してきましたが、原因ウイルスが特定されないのがほとんどです。高熱が続く咳がひどい感染症ではRS、hMPV(ブログを参考に)があります。

麻しん風しんゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日にMRワクチンを!!』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。